済々黌 投打にクレバー

春旬瞬

大竹耕太郎投手

済々黌2−0常総学院

狙い澄まして、振り抜いた。

済々黌−常総学院　4回表済々黌1死三塁、暴投で大竹が生還

4回1死一塁の第2打席。1打席目は直球三つで三振に倒れている。「次もそう来ると思った」。2球目、その球を逃さない。182センチ、71キロの細身の3番打者がフルスイングした打球は中堅フェンスを直撃。決勝の三塁打となった。

マウンドさばきも冷静だった。9安打されながら要所で力を込める。105球の省エネ完封。「甲子園は2度目。楽しめた」。涼しげに笑った。

昨夏の甲子園は「緊張であまり記憶がない」という。「自分のペースで試合に入れるように」と、直前の「習慣」を大事にするようになった。試合前日の就寝前に、家や宿舎の階段を全力で駆け上がるのもその一つ。朝はいつも通りにめんたいこを食べ、ルーティンを守って臨んだ。

次は剛腕・安楽を擁する済美戦。「楽しみ。力じゃかなわないけど、自分らしさを忘れずに投げたい」。大人びた17歳に怖いものはない。（渡辺芳枝）

○安藤（黌）　昨秋から捕手となり、甲子園で完封を演出。「甲子園で完封をさせてしまった。まだ納得はいっていません」

常総学院 あと1本

常総学院は本塁が遠かった。2点を追う8回2死二、三塁。2安打を放っている4番の内田につないだが、ボール球に手を出し、空振り三振。「力んで振ってしまった」とうなだれた。先発のうち8人で計9安打を放ち、安打数では相手を上回ったが、内田は「力不足。最後の決定力がまだまだと感じた」と夏への課題を挙げた。

●飯田（常）　「4回は変化球中心に変えたところを狙われた。課題も収穫もあったから、配球を変えなければ、という思いはない」

【済々黌】	打	安	点	振	球
遊 川	4	1	0	1	0
右 原	4	1	0	2	0
投 竹	4	1	1	1	0
捕 大	4	1	0	0	1
左 安藤	3	1	0	1	0
中 林	3	0	0	1	0
一 平	3	0	0	2	0
二 西下	2	0	0	1	1
三 小橋	3	0	0	1	0
岡林	3	0	0	2	0
犠併残	…	…	…	…	…
	1 1 3	29 4	1	11	2

【常総学院】	打	安	点	振	球
遊 吉沢	4	1	0	0	0
右 吉成	4	1	0	0	0
中 高島	3	0	0	0	0
捕 内田	4	2	0	1	0
三 進藤	3	1	0	0	0
左 浅沼	4	1	0	1	0
投 飯田	3	1	0	0	0
一 和田	4	1	0	0	0
二 池沢	3	1	0	0	0
犠併残	…	…	…	…	…
	3 0 8	32 9	0	2	0

投手	回	打	安	振	球	責
大竹	9	35	9	2	0	0
飯田	9	32	4	11	2	2

三大竹　二内田　塁飯田　遊安藤【審判】（球）尾崎（塁）斎藤　長谷川　谷

1時間41分

2013.3.27 朝日